

二二〇年間育まれてきた 社会知性、未来への継承

専修大学で学び飛ばしていた卒業生のうち、それぞれの学問の専門分野で
研鑽を積み、母校や他大学、さらには小中高校といった公教育の場で、後進の指導に当たる人も多い。
連載の最終回は、教育界で活躍する二〇人の卒業生の業績を紹介する。

専大で学んだ法医学談話が、 医学を極めていく端緒になった

専大に入学した一九五〇年は、
戦災の焼け跡があちこちにあり
ました。復員学生なども多く、
同学年でも年齢はばらばら。私
も父親がシベリア抑留から復員
するまで農家の長男として家を
守り、二年遅れの入学でした。

授業では経済法の常盤敏太教
授が講義の「行間」で話されて
いたドイツ留学中の法医学の話
がこのうえもない魅力で、私の
法医学志向の原点となりました。
卒業後、科学警察研究所に技
官として就職しましたが、先輩
は医師や薬剤師ばかりで、法学
士は私一人でした。業務は法医
学領域の法律分野とウサギやサ
ルを使った動物実験。毎日が未

知への挑戦でした。法医学は医
学の一分野で医学の基礎知識は
不可欠です。そこで、当時は四
年制だった獣医学科の三年に学
士入学して研究所に在職しなが
ら獣医師免許を得ました。

その頃、科学警察研究所は、
文化勲章受章者の古畑種基東大
名誉教授を所長に迎え、私は最
後の弟子になりました。

研究所の空気は一変し、犯罪
鑑識の鑑定業務に加え、法医学
上の研究も飛躍的に発展。財田
川、狭山、袴田事件や、航空機
墜落事故など、一〇〇〇件を超
える鑑定とともに、血液型に関
する研究も行ない、充実した二
〇年間でした。

後進の指導と、 これからの大学のあり方

七四年には新設された自治医
科大学に古畑所長の指示に従い
助教授として出向。八一年には
教授となり、定年までの二一年
間、血液型や唾液型の遺伝子、
骨髄移植の適合性、親子鑑定と
法医解剖など多くの鑑定を行な
い、また教室員の協力も得て国
際誌への論文発表や国内外での

学会発表を続け
ました。

母校専大でも、
三三年間、教壇
に立ちました。
折に触れて学生
たちには、外国
語一カ国語を修
得する、専門科
目は一科目クラ
スでトップにな
る、趣味一つは

玄人を超える術を培うように話
してきました。これぞ、私学出
身者が勝ち抜いていく要諦に思
えてなりません。また教員には、
専攻と同時に、それに劣らぬ副
専攻を持つと言ってきました。
これこそ二一世紀の教育改革を
提言できる知の源泉と考えてい
る昨今です。



日本獣医生命科学大学学長 自治医科大学名誉教授 池本卯典

(1954年法学部卒業)
鳥取県出身。専大卒業後、日本獣医畜産大学(当時)、東京女子医科大学研究科、東京大学研究生を経て、科学警察研究所主任研究官。獣医師、医師(中国)。74年、自治医科大学助教授、81年、同大学教授。現在は名誉教授。99年より現職。専攻は法医学、人類遺伝学。ヘルツ賞受賞。ニューオーク科学アカデミー会員、日本獣医師会獣医事審議会委員、比較臨床医学会理事長などを歴任。

専大時代に培った 自ら「考える力」が 原点にある

上智大学名誉教授 坂口洋一

(1970年法学研究科博士後期課程退学)
長野県出身。70年、東京外国語大学専任講師。同大学助教授・教授を経て、94年、上智大学法学部教授。07年、名誉教授。08年から専大法科大学院の非常勤講師。専門は、環境法、自然保護法、比較環境法など。



専

大で学んだ六一・七〇年
は、公害の深刻化やベト
ナム戦争の頃。学部と大学院を
通じて、歴史や社会学の本を読
み漁り、社会問題を自ら「考え
る」大切さを学びました。
当時から、論文の執筆に注力。
学部四年と修士課程のとき、「大
学祭祀論」に応募して、最
初が二席、二回目は一席で、全
文が学内新聞に載りました。博
士課程のときは、院生にも論文
発表の場が与えられるよう運動
して、「経済と法」という機関誌
を発刊してもらいました。
その後、七〇年には他大学の

教員に採用され、米国での二年
間の研究も経て、公害や環境法
について調査研究を続けました。
今後、国内の里地・里山の復
活など「持続可能な社会」づく
りについて、研究していきます。
六〇年代とは異なり、現代社
会はグローバル化、環境の破壊
などが錯綜しているので、研究
の方向を見定めにくい時代です。
そんな時代だからこそ、専大が
提唱する「社会知性」を身につけて
ほしい。また持続可能な社会づく
りのためには、大学での環境教育
の充実も必要と感じています。

研究に翻訳、 学校経営 そして校長職 —教育の さまざまなかたち



臼杵市教育委員会文化財専門員
菊田 徹
(1972年文学部卒業)
東京都出身。在学中は森幸一
教授に師事し歴史考古学を研究。
卒業後、宮城県多賀城跡調査研究
所勤務を経て、76年より臼杵市
教育委員会に勤務。以来、磨崖
仏などの文化財の研究に従事す
る。



江東区立明治小学校校長
神山安弘
(1974年文学部卒業)
神奈川県出身。専大卒業後、
76年に明治大学文学研究科史
学専攻修士課程修了。77年から
都内の公立小教諭、都教委の指
導主事、大田区教委の指導主
事、公立小校長を歴任。09年より
現職。



八王子市立第五中学校校長
齋藤博志
(1979年文学部卒業)
東京都出身。神奈川県公立養
護学校、東京都阿田市の公立中
学校などの教諭を経て、03年八
王子市立七国中学校の校長に就
任。08年より現職。全国中学校
社会科教育研究会事務局長。



川島学園理事長
川島英和
(1988年商学部卒業)
岡山県出身。専大卒業後、都
内の私立高校に4年間勤務。
その後、92年からは鹿児島美
術高等学校や専門学校などを
擁する川島学園に勤務。01年、
同学園の理事長に就任し現在に
至る。



富山大学経済学部
経営法学科講師
渡邊一弘(2006年法学
研究科博士後期課程修了)
茨城県出身。専大大学院任期
制助手、首都大学東京都市教
養学部法系助教を経て、09年
より富山大学経済学部経営法
学科講師(刑事訴訟法・刑事
法)。08年、菊田クリミノー
ロジー奨励賞受賞。

学生生活を改めて振り返ったとき、
当時の森口忠造理事長の薫陶を受け
て、報恩奉仕、質実剛健といった建
学の精神に触れたことが財産にな
っていると 생각합니다。現在、理
事長を務める学園では「不屈不撓」
が校訓ですが、専大の教えにも通ず
るものがあると感じます。

柘植光彦ゼミは、自由な発想で日
本文学の今日について研究してい
ました。学校という枠やアカデミ
ズムの慣習に捕らわれない、評論
の仕方などを学びました。現在、
日本で紹介されている韓国文学は
まだ少ないので、より多くの文学
作品を日本の読者に届けたいと願
っています。

少年法の問題に関心をもち大学
院に進学。学部のゼミからご指導
いただいた岩井宜子先生の下で、
自由社会における刑事司法の役
割・機能を探りました。専大での
講義は、学問的関心を喚起し探究
の喜びと挑戦への勇気を提供し
てくれ、人生設計に大きな影響
を及ぼしました。

「珠算道」の追究と 指導に熱中した 教員生活

都立大田桜台高等学校校長 長船孝明

(1978年商学部卒業)
愛知県出身。商業高校を経て
商学部会計学科に入学した際
は、珠算7段を保有。卒業後、教
職の道に入り主に、商業や珠算
を指導。各校での教頭や副校長
を経て、09年4月、新設開校し
た大田桜台高校の校長に就任。



入

学後は、「実務珠算研究
会」の活動に熱中しまし
た。そろばんを弾くことも楽し
かったのですが、大会のプロデ
ュースをしたり、大学間の珠算
組織の役員を務めたりと、活動
の輪は広がっていき、大きな刺
激になりました。

講義では「商業計算」の帷井
昭孝先生が印象的でした。年金
や減価償却のことをわかりやす
く教えていただきました。ちな
みに先生の講義は一回も欠席な
し。出席カードのパンチの穴が
毎回変えられており、小細工が
利かなかったからです(笑)。

卒業後は、都立高校の「商
業」の教諭に採用され、以来、
二三年間、現場で生徒を指導し
てきました。時には「なんでわ
かってくれないのか」と感じる
こともありましたが、教わる側
から教える側の立場になり、「珠
算道」では一人ひとりに合った
指導が必要と痛感しました。

現在勤める高校では、ビジネ
スコミュニケーション科を設け
て、ビジネス・英語などを強化
しています。専大をはじめとす
る文系の四年制大学への進学率
を高めることが、校長としての
抱負です。